

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 3年 6月 28日

(宛先) 岡 崎 市 長

提出者

住 所 岡崎市十王町二丁目9番地

氏 名 岡崎市

岡崎市水道事業及び下水道事業管理者

伊藤 茂

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 (0564) 45-3801

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	仁木浄水場
事業場の所在地	岡崎市仁木町字川越46-1
計画期間	令和3年度(令和3年 4月~令和4年 3月)
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	36:水道業
②事業の規模	年間配水量: 10,439,230 m ³ 平均配水量: 28,601 m ³
③従業員数	15人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	浄水処理 → 汚泥池 → 濃縮槽 → 排水処理施設 → 汚泥(脱水ケーキ)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
産業廃棄物処理責任者		水道浄水課長	
産業廃棄物施設技術管理者		施設2係係長	
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	11,447 t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	11,400 t	t
	(今後実施する予定の取組) 予測が難しい水量変化及び水質変化に対して水道法を厳守し、今まで以上の適時適正な浄水処理を検討する。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 浄水場で発生する汚泥は分別することが難しいと判断されるため、特に取り組みは行っていない		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 浄水場で発生する汚泥は分別することが難しいと判断されるため、特に取り組みは行っていない。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	431 t	t
	（これまでに実施した取組） 浄水場内に設置してある産業廃棄物中間処理施設において処理（脱水）した汚泥（脱水ケーキ）を男川浄水場へ運搬し売却した。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	450 t	t
	（今後実施する予定の取組）		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	11,017 t	t
	（これまでに実施した取組） 処理前汚泥濃度を上げる方法、脱水汚泥の含水率減少方法を検討した。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	10,950 t	t
	（今後実施する予定の取組） 処理前汚泥濃度を上げる方法、脱水汚泥の含水率減少方法を検討する。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 浄水場で発生する汚泥を場内に埋立処分又は海洋投棄処分することは難しいと判断しているため、特に取組みは行っていない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 浄水場で発生する汚泥を場内に埋立処分又は海洋投棄処分することは難しいと判断しているため、特に取組みは行っていない		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	0 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 産業廃棄物の処理において、土壌改良材として再利用した。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	0 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 発生汚泥は仁木浄水場から男川浄水場へ運搬し売却予定。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。